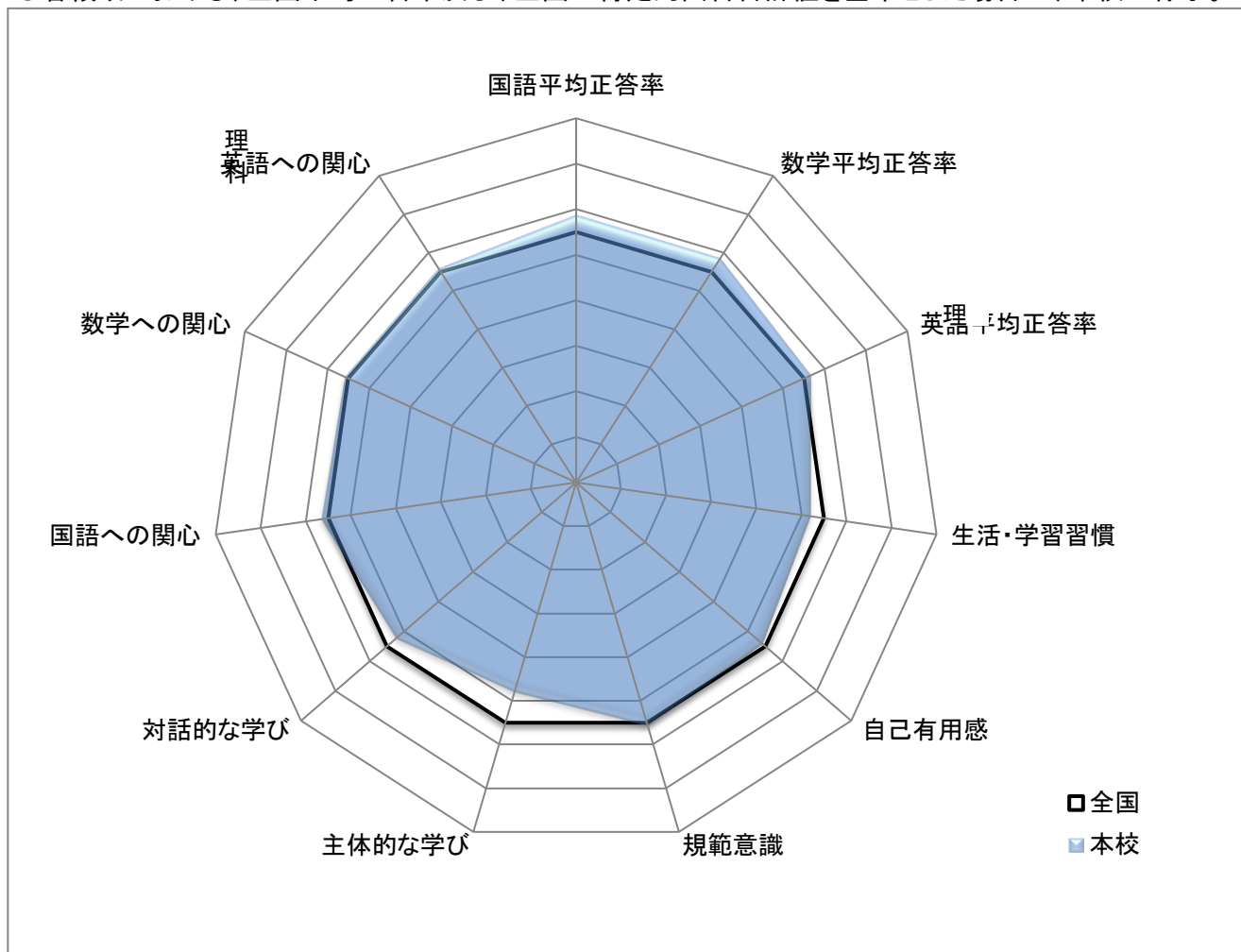


●各領域における、全国平均正答率及び、全国の肯定的回答合計値を基準とした場合の、本校の様子。



《現状把握》

国語は、言葉の特徴+7.1%、情報の扱い方-0.9%、言語文化+4.9%、話すこと・聞くこと-0.9%、書くこと-0.9%、読むこと+4.7%だった。
 数学は、数と式+4.6%、図形+3.1%、関数+8.0%、データの活用-1.4%だった。
 理科は、エネルギー+3.7%、粒子+3.8%、生命+0.8%、地球+0.3%だった。(全国比)
 理科は全体的に全国の平均を上回っている。
 国語と数学は全体的全国平均を上回るが、一部全国平均を下回る分野もあった。

《授業改善のポイント》

国語では、書くことに重点を置いて、意見文や作文の指導を推進する。読解のポイントや表現の方法を身につけさせる。話すこと・聞くことにおいて、段階に合わせて目標を提示する。場に応じて適切な語句や表現を選ばせ、客観的な視点を持たせるようにする。
 数学では、一人一人に細かな指導を行い、問題解決型の授業や小グループによる学び合いの実践を行う。自分の考えを発表・説明する時間を確保する。
 理科では、反復学習による、基礎基本・既習事項の定着を図る。自己の考察を振り返る機会を設け、体系的な学習の定着に努める。

《チャートの特徴》

全国平均正答率と比較すると、国語+5.0%、数学+3.6%、理科+1.7%と、全教科で全国平均を上回る結果になった。さらに、全教科とも教科への関心が高い(全国比で、国語1.03倍、数学1.02倍、理科1.02倍)。教科への関心と正答率が相対するものと考えられる。一方で、生活学習習慣(全国比0.94倍)、自己有用感(全国比0.98倍)、主体的な学び(全国比0.86倍)、対話的な学び(全国比0.94倍)、は、全国平均を下回る結果となった。

《家庭・地域への働きかけ》

定期考査の学習計画表や振り返りシートを通して、学習習慣の確立を図る。進路に関する情報を発信し、関心を高める努力をする。学校だより、保健だより、学年通信等を通して、生活習慣の改善をよびかける。